

ぎふ感染症かわら版

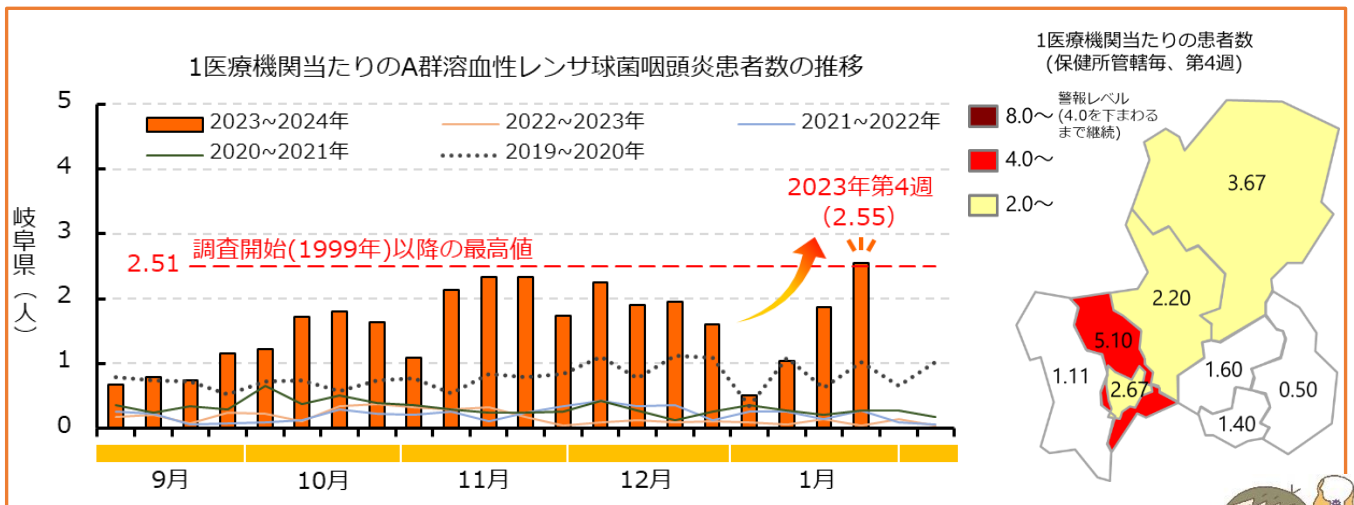
令和6年2月1日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が過去最高になりました！

岐阜県全域での第4週（1/22～1/28）の患者報告数が、調査を開始した1999年以降で最も高い1医療機関当たり2.55人となり、地域別では岐阜保健所管内（5.10）が最も高くなっています。昨年秋ごろから全国的に流行しており、今後、岐阜県内でも急増する可能性があります。マスクの着用や咳エチケット※、手洗いなど、日常での感染予防をお願いします。

※咳エチケットは、感染症を他人に感染させないために、個人が咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ等を使って、口や鼻をおさえることです。



どんな病気？

A群溶血性レンサ球菌（溶連菌^{ようれんきん}とも呼ばれます。）の感染により、急な発熱とのどの痛みや腫れを起し、しばしばおう吐を伴います。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。溶連菌は、皮膚の炎症や中耳炎など、さまざまな症状を起こすことがあります。

治療には抗生物質が有効とされますが、合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、内服を続けることが大切とされています。



どう感染するの？ 予防方法は？

咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染や、手指を介した接触感染が主な感染経路です。そのため、予防には感染者との濃厚接触をさけることが重要であり、特に家族が感染した時などは、密接な接触は控えましょう。また、こまめな手洗いも予防に有効とされています。

のどに痛みがある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

